

令和6年度 安全管理優良受注者 安全管理事例集

目 次

株式会社 植木組	P. 1
加賀建設 株式会社	P. 2
株式会社 加賀田組	P. 3
株式会社 興和	P. 4
株式会社 小山組	P. 5
株式会社 坂詰組	P. 6
株式会社 相模組	P. 7
新栄建設 株式会社	P. 8
株式会社 高館組	P. 9
竹沢建設 株式会社	P.10
敦賀旭土建 株式会社	P.11
日本道路 株式会社	P.12
福田道路 株式会社	P.13
株式会社 文明屋	P.14
北陸パブリックメンテナンス株式会社	P.15

(50 音順)

令和6年 9月12日
北陸地方整備局 企画部

株式会社植木組

1. 会社としての安全管理重点事項

- ①労働災害、事故及び公衆災害の発生を防止するとともに、心身の健康の保持増進を図る。
- ②当社の企業活動に携わるすべての人々は互いに協力し、安全衛生活動に積極的に取り組む。
- ③労働安全衛生に関連する法令並びに安全衛生関係諸規程及び作業所のルールを順守する。

2. 現場等における具体的な取組事例

①千曲川大町地区堤防強化工事における安全管理上の課題

本工事は、施工箇所が多数点在したうえ施工数量も大幅に増加した。施工区間延長は延べ約3.5 kmにもなり、河川工事のため限られた工事期間の中で、複数の施工箇所を同時に施工する必要があるため、安全管理活動の維持は非常に難易度が高くなった。

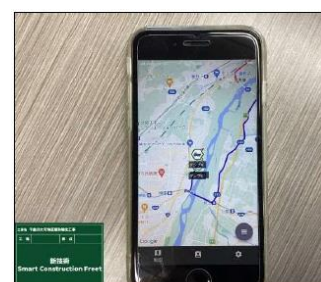
②課題に対して現場で行った安全対策

【安全管理活動】堤防沿いの工事エリアは、毎日現場巡視を行い危険個所の早期発見・是正に努めた。複数ある工事エリアの作業情報について、各施工業者全員で共有し、他エリアのリスクマネジメントとして活用した。

また、他社と共用する工事用道路の維持管理も担ったが、日々生じる補修作業も自主的に行い、地元車両・他工事車両の路面不具合による事故防止に努めた。

【安全教育】長大な工事範囲に対し、『SMART CONSTRUCTION Fleet』（スマートフォン）を活用した緊急時の連絡体制を確保し安全な施工に努めた。同時にその技術を応用した避難訓練も行い、緊急時に備えた。

また、不可視部が生じる作業の前には VR による安全教育を行い、関連作業への危険個所の事前周知に努めた。



【SMART CONSTRUCTION Fleet】



【VRによる安全教育】

3. その他工夫している点

出水期に高水敷に仮置きできない掘削土砂（約15,000m³）について、他工事は場外搬出したのに対し、当該工事は護岸工の急速施工を行い、掘削土砂を場外搬出せず期間内に桜堤盛土を完了させた。これは工事の効率化を図り、且つ場外への土砂運搬を削減し、ダンプトラックによる交通事故リスク回避につなげた。

また、地元の農耕者が使用する坂路が施工区域内に数か所あったが、地元要望を最大限に取り入れ、施工順序を調整し高水敷への農耕者の安全通行を確保しながら施工した。

加賀建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①ヒューマンエラーの防止

外部講師による安全教育を通して新しい安全基準や労働安全衛生規則を学ぶ場を提供し、安全や不安全行動に関する知識を深めることでヒューマンエラーによる事故防止に繋げる。

②安全指示・連絡等の確実な伝達

現場の工事関係者一同に安全指示を周知徹底させるため、写真や図表等を用いてわかりやすく指示することを実践し、その現場特有の危険箇所を確実に伝達する。

③充実した社内教育の実施

毎月開催している安全衛生委員会では、安全パトロールの結果を共有するとともに、模擬安全パトロールやグループワークを行い、社員が主体的に取り組む社内教育を実施する。

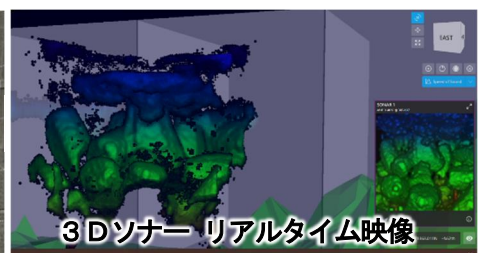
2. 現場等における具体的な取組事例

①金沢港（大野地区）防波堤（西）（改良）築造工事における安全管理上の課題

本工事は、水深 10m～15m と深く海上からの視認が困難な場所で基礎工、被覆工、消波工を施工するため、ブロック据付時の潜水土との接触防止等や潜水病の防止が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

水中ドローンを活用し潜水作業をリアルタイムに可視化するとともに、USBL 音響測位装置により、潜水土位置を把握しながら作業を行った。また、リアルタイム 3D ソナーを活用し、クレーンオペレータと作業指揮者がモニター画面で水中の状況を把握しながら作業を行った。これら ICT 技術により水中作業の「見える化」を実現させることで、施工の安全性を向上させることができた。



3. その他工夫している点

①若手・女性技術者の安全衛生教育

建設業労働災害防止協会から外部講師を招き、若手技術者・女性技術者を含め、専門的な安全衛生教育を受ける講習会を開催し、基礎的な知識・技術の習得に努めた。



②ブロック運搬時における専用架台の使用

本工事で使用したブロックは設置面が少なく安定性の悪い消波ブロック（65t）であったため、大型トレーラにH形鋼による専用架台を設置し、運搬時の滑動・脱落を防止した。



株式会社加賀田組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

- 『安全即実行』をスローガンとし、『人命尊重』の基本理念の下に、予知活動を積極的に展開し、完全な安全衛生管理活動の実現を目指す。

②重点実施事項

- 工事特有の危険有害要因を着前検討会議、検討会等で特定し安全衛生管理体制を確立する。
- リスクアセスメント・危険予知の積極的な展開と実モデルによる現地KYを実践する。
- 店社・安全衛生委員会による月1回以上のパトロールで法違反・不安全行動を排除する。

2. 現場等における具体的な取組事例

①大河津分水路山地部掘削その2 1 工事における安全管理上の課題

本工事は、大河津分水路の河口部拡幅に伴う左岸山地部の掘削及び掘削法面の保護、掘削土砂の運搬を行うものである。工事特性として、すべり面上部の複雑な地層構成、約14万 m^3 と大規模な掘削・土砂搬出、混在する関連工事と共用する工事用道路などがあり、これらを踏まえて、特に重要な安全管理上の課題を以下の3点とした。

- 1) すべり面上部の掘削における地山や法面の崩壊
- 2) 多数のダンプが走行する一般道での交通事故
- 3) 統括安全衛生管理義務者として工事用道路全体の運行管理

②課題に対して現場で行った安全対策

- 1) 地質 CIM モデル、過年度工事 CIM モデル、本工事設計 CIM モデルを用いた“統合 CIM モデル”（図1）の新規作成と試掘により、地層変化点を事前に把握した上で掘削高を制限しながらベンチカットを行い、地山・法面の崩壊を予防した。
- 2) ダンプ位置情報のリアルタイム表示・遠隔指示・注意喚起が可能な“SMART CONSTRUCTION Fleet”（図2）を使用したダンプの常時動態監視と“100 インチ大型 LED サイネージ”（図3）による安全指示事項の可視化によって、土砂運搬に伴う交通事故及びクレームの発生を防止した。
- 3) 混在する関連工事と共有する延長15kmの工事用道路に対し協議会運営・運搬経路の工事間調整、路面及び安全施設の点検・補修等により、事故なくダンプを円滑に走行させた。

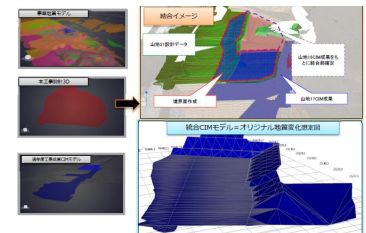


図1 統合 CIM モデル



図2 SMART CONSTRUCTION Fleet



図3 大型LED サイネージ

3. その他工夫している点

- ・**ダンプ積載量**: ダンプ毎の最大積載重量を入力し積込時に積載重量と積載率を表示する“ペイロードメーター”搭載 ICT バックホウを活用することで、積載量の最大化による運搬効率の向上を図りつつ、従来の重量管理を不要とした過積載防止対策を実施した。

株式会社 興和

1. 会社としての安全管理重点事項

- ①リスクアセスメントによる先取り危険予知活動の推進
 - 1. 基本的安全管理の実行 2. 予測安全管理の実行
 - 3. 工事現場における安全衛生管理の徹底 4. 安全衛生教育の充実
 - 5. 安全衛生教育への支援 6. 危険性又は有害性等の調査とその低減措置の実施
- ②全員参加で作業手順の作成遵守
 - 1. 作業手順書、作業計画書の作成とその遵守 2. 始業前ミーティング、KY 活動の有効活用
- ③協力会社の安全衛生管理の徹底
 - 1. 管理、指導体制の確立 2. 工事現場における管理の確立

2. 現場等における具体的な取組事例

①滝坂地すべり対策施設修繕他工事における安全管理上の課題

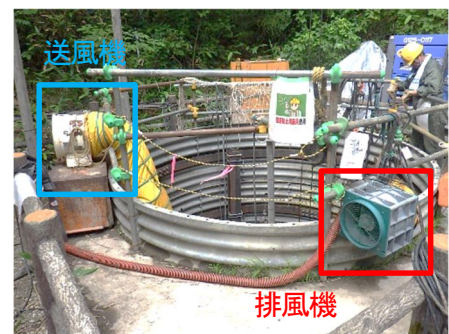
本工事は福島県西会津町にある大規模地すべり地帯「滝坂地すべり」において、集水井内での集排水ボーリング工を主に行ったものである。そのため、坑内作業に対する安全対策が重要課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

月々の安全教育では、集水井内での作業が体験できる「VR 安全教育」を取り入れ、危険箇所の確認、作業員の安全意識向上に努めた。また、排水ボーリング工事では、鋼管を溶接しながら推進する「大口径排水ボーリング工」を施工したため、送風機とは別に「排風機」を設け、坑内の溶接フュームを素早く排出した。



【VR 安全教育実施状況】



【送風機、排風機設置状況】

3. その他工夫している点

女性が積極的に参加できるよう、組立式フイッティングルーム、男女別の快適トイレを設置した。また、女性社員による現場パトロールを定期的の実施し、女性目線での改善点や助言を取り入れた。



【フイッティングルーム、パトロール実施状況】

株式会社 小山組

1. 会社としての安全管理重点事項

①企業方針に基づく安全衛生管理計画の策定

「全従業員の物心両面における幸福を追求すると同時に地域の社会資本発展に貢献し、県内で一番喜ばれる数の多い建設会社になる」の企業方針を基に、全従業員の安全と健康の確保を目的とした年間の安全衛生管理計画を策定し、働き易い作業環境の構築を図る。

②フォローアップ体制の構築

現場における危険要因を洗い出すため、「施工・技術検討会」を工事着手前に開催し、施工計画作成に反映させる。また、各現場における問題点を共有し、改善策のフォローアップ体制として、安全衛生推進者が月に2回以上現場を巡回し、安全管理の充実を図る。

③協力業者合同安全パトロールの実施

毎月実施している社内安全パトロールには、定期的(4回/年の計画)に協力業者も参加して頂き、各専門分野の幅広い視点からの意見を取り入れ、安全対策の向上に努める。

2. 現場等における具体的な取組事例

①R5 俱利伽羅防災 河内地区改良その3工事における安全管理上の課題

現場条件より、施工箇所は山間部に位置し、工事用道路は曲線かつ急勾配(約12%)である狭隘な既存農道に限定され、施工時期は10月下旬から12月上旬と冬季間において深層混合処理工を施工する必要があった。このことから、資機材の搬入出車両(特にセメントローリー車)の通行時における安全確保が課題であった。



②課題に対して現場で行った安全対策

工事用道路のうち、急勾配の箇所には、鉄筋付き敷鉄板(滑り止め対策)を敷設することで、スリップ事故防止に努めた。

見通しの悪い曲線部には、カーブミラーを設置することで、接触事故防止を図った。



3. その他工夫している点

山間部かつ施工時期より早い時間帯での夕暮れが推測されたことから、照明施設としてパワーライト及びLED照明を配備し、照度確保による作業環境を整え、作業従事者の安全確保に努めた。

パワーライト・LED照明



株式会社坂詰組

1. 会社としての安全管理重点事項

- ① 公衆災害・工事事故「ゼロ」の達成
 - ・ 自社安全衛生マニュアルの遵守
 - ・ 架空線、埋設物の着工前事前調査の実施と防護の徹底
- ② 交通事故「ゼロ」の達成
 - ・ 作業計画の策定と周知の徹底
 - ・ 労働時間等管理の徹底
- ③ 健康に配慮した快適職場創りの推進
 - ・ 定期健康診断の事後措置の徹底
 - ・ 長時間労働防止のための業務形態の助言、指導の徹底



ハザードマップ

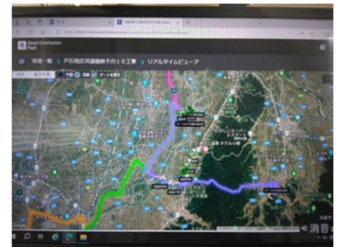
2. 現場等における具体的な取組事例

① 戸石地区河道掘削その10工事における安全管理上の課題

本工事は施工箇所が2箇所、上流地区では河道掘削と掘削により消失する取水ポンプ施設の新設。下流地区では河床部の軟弱地盤再堆積土砂の掘削撤去を行う工事である。河道掘削土は数多くのダンプトラックを使用して運搬を行うため土砂運搬時における交通事故防止対策・過積載防止対策が重要となり、軟弱地盤再堆積土の掘削では掘削機械の選定が課題となった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

土砂運搬経路に特化したハザードマップの作成を行い、危険箇所運転マナーの教育を強化し、現場代理人等による抜き打ちパトロールを定期的に行うと共に運行管理は Smart Construction Fleet、過積載防止はペイロードバックホウを活用し施工した。また軟弱地盤再堆積土の掘削においては超低接地圧でヘドロ状の地盤でも進入可能な泥上掘削機により施工し安全対策を実施した。



運行管理システム



泥上掘削機

3. その他工夫している点

新設取水ポンプ施設部の床掘は、土留め仮締切内の狭隘な環境下であり重機の死角となり重機と作業員の接触事故等が懸念されたため、監視カメラ（スマートフォンの有料アプリ）を活用し、上部BHオペレータ・締切内の小型重機オペレータ・作業員を無線で繋ぐとともに、現場事務所内のPCにて不安全行動等の監視を行った。その結果、作業環境の改善、安全性の向上を図ることができ、安全に施工することができた。



施工状況



バックホウのキャビン内

株式会社 相模組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理基本方針

株式会社 相模組は、「安全最優先」を基本理念として、当社の事業所で働く人全員の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を推進する。

②安全衛生活動の重点

墜落・転落災害防止及び交通事故防止に重点を置き、災害ゼロを達成する。現場に潜在する危険性や有害性を見つけ出し、早期に除去・低減するため事前に社内にて審査を実施し、災害ゼロを目標とする。

③目標達成のための重点実施事項

- 1) ヒューマンエラー防止のために、特にリスクアセスメント危険予知（RKY）に重点的に取り組み、安全衛生管理活動の強化を図る。また、危険予知運転を励行し、交通事故ゼロを達成する。
- 2) 快適な職場環境づくりと、社員一人一人が自主的に健康管理・維持に努める。

2. 現場等における具体的な取組事例

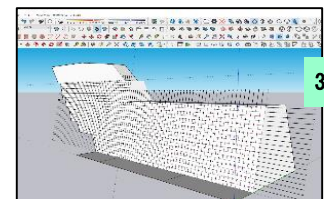
①令和4年度 北股第1号砂防堰堤改築工事における安全管理上の課題

本工事は既設砂防堰堤に腹付けコンクリートを施工する工事であり、差筋アンカー施工に伴う削孔作業が必要なため、削孔箇所梯子等を使用しマーキングを行うが、不安定な梯子上での作業に墜落・転落の可能性があります、作業の重要課題と考えました。

②課題に対して現場で行った安全対策

1) 3次元モデル化

データ上で削孔箇所の3次元モデルを作成。



3次元モデル化

2) AR（拡張現実）の使用

- 1) で作成したデータを既設コンクリート面にタブレット端末を通し投影し、足場の良い平地面で削孔箇所の確認後、削孔作業を行いました。



削孔箇所の投影・確認

3. その他工夫している点

・FRP 単管の使用

作業足場の手摺部分に FRP 樹脂素材の単管を用いて軽量化を図りました。足場設置時・撤去時の作業の負担やリスクが軽減され作業員の方々に大変喜ばれました。また、FRP 単管が着色されているので注意喚起にも繋がりました。



FRP単管

新栄建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理計画の徹底

社として年間安全衛生管理計画書、月別安全衛生管理活動計画表を作成し当月の安全重点項目を定め社員に周知している。

②安全管理体制の構築

統括安全衛生管理者を中心に安全衛生委員会を開催し、各現場代理人が作成した安全衛生計画書により各現場の特性等の情報を共有し、それぞれにおける安全対策の検討を行っている。また月 1 回以上の安全パトロールによりその安全対策が遂行されているかチェックリストにより確認し、その結果を映像等により全社員に共有している。

③安全大会の実施

社内安全大会の中で安全管理について顕著な取組を行っていた現場の管理者を表彰することや、社員から安全標語を募集することで安全意識の高揚を図っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①コンクリート打設における安全管理上の課題

コンクリート打設作業時におけるバケット使用作業において型枠、既設構造物際等の狭隘箇所での挟まれ事故が懸念される。それらを如何に防止するかが安全管理上の課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

現場での対策としては狭隘箇所に人が行かなくても打設ができるよう空気圧により開閉し、リモコンにより操作できるコンクリートバケットを採用した。その結果挟まれ事故の防止となり安全にコンクリート打設作業を行える環境となった。



3. その他工夫している点

①交通面において見通しが悪くすれ違えない箇所での対面通行を回避し停車滞留少なくするため車両センサーを導入。

②山間僻地での現場で負傷者が発生した場合の現場常備担架を使用した搬送訓練

③Web カメラ設置により悪天候による作業中止後の現場状況を遠隔操作により安全に確認

④クレーン作業時における胴体が可視できない状態時での合図者ヘルメット色別によるクレーンオペレーターからの視認性の向上。

株式会社 高館組

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生活動の目的

労働災害を未然に防止する為に必要な基本的事項を明らかにし、作業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進し、作業遂行を円滑化し生産の向上を図る。

②安全衛生管理体制の構築

当社の安全衛生管理組織の一部に安全衛生委員会を設け、各部門から選出された委員で構成されている。毎月1回安全衛生委員会を開催し、パトロール結果報告と年間計画の月別重点目標を本社並びに現場に掲示し、安全意識の高揚に努めている。

③安全パトロール及び安全衛生指導会の実施

- ・毎週水曜日パトロール

第1:安全衛生委員, 第2:営業・総務, 第3:現業(土木・建築), 第4:会社トップ

女性も含めた現業以外の違った目線でもパトロールを行い、職場環境の改善に努めている。

- ・協力業者労働災害互助会パトロール: 年2回(7月・10月)

- ・外部講師による安全衛生指導会の開催

➢心肺蘇生・AED使用訓練、メンタルヘルス、笑いヨガ(笑いの健康法)

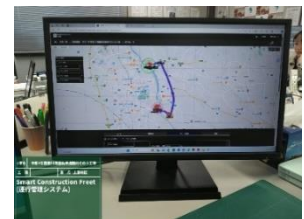
2. 現場等における具体的な取組事例

①関川河道維持掘削外その2工事における安全管理上の課題

本工事は、施工箇所が3箇所に点在する工事で3箇所すべてにおいて掘削・土砂運搬作業を行う工事であった。特に上島地区においては、堤防上での車両走行幅及び車両出入口が狭く、車両出入口を別々にし、一方通行とする必要があり、現場内での車両の混在が懸念された為、土砂運行管理における安全管理が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

運行管理システムを活用し、ダンプトラック1台につき1端末(タブレット)を携帯することにより、ダンプトラックの位置情報をリアルタイムで遠隔確認ができ、双方向通信による現場技術者と運転手及び重機オペレータとの素早い連携を実現し、安全管理に努めた。



3. その他工夫している点

安全衛生の一環として、自社建設ディレクター(建設ディレクター協会認定者)により現場をバックオフィスからサポートし、現場技術者の仕事量軽減及び精神的ストレス軽減を実現し、チームとして円滑に工事を進めることができた。

竹沢建設株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生方針

人間尊重の精神に立ち返り、実効ある安全衛生活動を着実に展開し、職場で働く人々の安全と健康を確保すると共に、快適な職場づくりに努める。

② 安全衛生管理体制の構築

建設業の特性を加味した労働安全衛生マネジメントシステム『コスモス』を確立し、建設業労働災害防止協会より認定を受け運用している。構築されたシステムでは、店社と作業所が一体となり、『計画 P-実施 D-評価 C-改善 A』という一連の過程をスパイラルアップの姿勢で実施し、労働災害の防止を図っている。

③ 安全衛生活動の実施

年間安全衛生管理計画に基づき、安全周知会（年1回4月）や安全大会（年1回6月）、安全衛生委員会（月1回）を開催して周知・確認していると共に、店社安全パトロールについては月3回の頻度で実施し、その内1回はDX技術活用の一環としてWEBにて抜き打ちで行っているほか、女性社員による衛生パトロールも実施している。

2. 現場等における具体的な取組事例

① 小矢部川・長江堤防強化その9工事における安全管理上の課題

本工事は、老朽化した堤脚保護修繕工事と堤防強化工事の工事箇所が離れた2箇所の合併工事である。特に堤脚保護修繕工事は、特殊提箇所の施工、出水期施工かつ仮締切の設置が難しい中で、常時水中に50cm以上水没している箇所の施工という作業条件であり、出水時における作業員の安全性確保、仮設物等の流出防止対策が重要課題であった。

② 課題に対して現場で行った代表的な安全対策

上記課題に対して、①型枠を使用しない工法の提案、②足場を分割ユニット化して設置撤去を実施、③警報級降雨予想の際は足場を即撤去・作業中止、④清掃等は親綱にて施工して足場設置期間を短縮、⑤WEBカメラを設置して常時スマートフォンで水位監視・確認など、様々な安全配慮・気配り・創意工夫のもと施工を進め、無事故・無災害にて完成させた。



3. その他工夫している点

建設業労働災害防止協会から講師を招き、自然災害復旧・復興工事に関する安全衛生教育を主催・実施したほか、のり面ロープ高所作業特別教育も本工事が主体となって計画・実施するなど、積極的に労働災害の防止と安全意識の高揚を図った。

敦賀旭土建株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生基本方針

「人命尊重」の基本理念の下に安全衛生管理活動の実施を目指す。

② 社内安全管理体制の構築

安全衛生活動計画に基づき、経営サイドによる現場パトロール、安全訓練、講習会などを実施し、毎月1回、安全衛生委員会にて結果報告及び改善報告、意見交換などの情報を共有している。

③ 施工検討会議の実施

工事着手に先立ち、現場サイド、経営サイドによる施工検討会議を開催し、様々な視点から議論し会社全体で災害、事故防止に努めている。

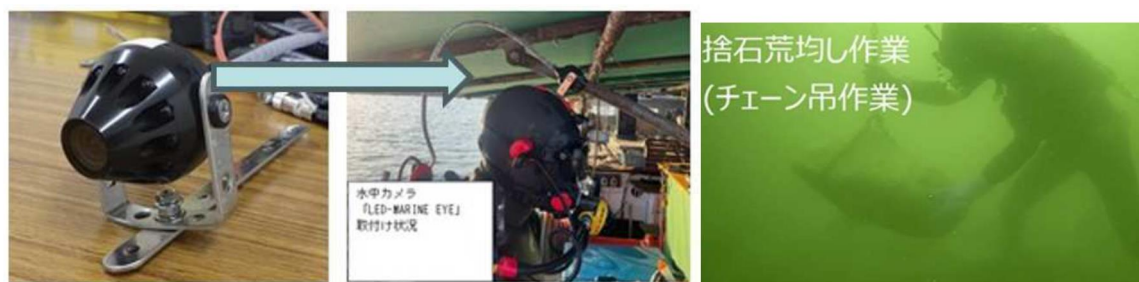
2. 現場等における具体的な取組事例

① 敦賀港(鞠山北地区)防波堤(改良)基礎工事(その2)における安全管理上の課題

当該施工箇所は隣接する別件工事と既設構造物に挟まれた狭隘且つ、潮流による別件工事で発生した濁りの影響を受けやすい現場条件であったため、潜水作業は潜水土船に乗船する施工従事者から不可視部分があり、潜水土の安全確保が課題となった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

本工事においては潜水土に水中カメラを取り付けることで、潜水土の判断に頼る部分が多い潜水作業を可視化することにより、施工従事者全体で情報共有ができ、的確に施工指示を促せたと共に潜水土の安全を確保できた。



【水中カメラによる施工状況確認】

3. その他工夫している点

健康保持、増進に向けての取組。

- ① 時間外労働の上限規制厳守と計画的な休日確保。
- ② メンタルヘルスケアの推進。
- ③ 健康診断受診率 100%と有所見者へのフォロー。

日本道路株式会社



1. 会社としての安全管理重点事項

- ①「働く人」との事前打ち合せと、教育・指導・確認、法令・基本ルール・作業手順の順守、安全施工サイクルの確実な実行による労働災害の撲滅
- ②第三者・地下埋・架空線等の事前・施工中確認および視える化等防止対策を「働く人」へ周知・指導強化による公衆災害の撲滅
- ③法令順守、運転への集中、事業所安全運転管理の徹底による交通事故の撲滅
- ④現場および工場における作業環境リスク低減をはかり、業務上疾病の撲滅

2. 現場等における具体的な取組事例

①R4 水原維持管内舗装修繕工事における安全管理上の課題

本工事は、国道 49 号の道路修繕を目的とした昼夜連続片側交互通行規制での舗装打換え工事であった。作業エリア及び開放車線が狭い状況下での工事であるため、安全管理上の課題として、

①A：一般車両の安全走行確保 ②B：重機車両による災害の防止 が挙げられた。

②課題に対して現場で行った安全対策

本現場は①A一般車両の安全走行確保が重点対策項目であり、以下の対策を講じた。

I：規制起終点後方にスリム型電光掲示板を設置し、車両の事故防止対策を実施した。併せて誘導員配置人数の削減により生産性向上も図った。

II：開放車線の狭所箇所・工事車両出入り口や、現場終点部にある鳥井パーキング出入口には高輝度看板+LED ライトの設置と交通誘導員を配置することで、一般車両への注意喚起と車両の誤進入を防ぐことを図り無事故で工事を完成した。



I-スリム型電光掲示板



II-高輝度看板+LED ライト



交通誘導員配置



3. その他工夫している点

- ・工事車両後退時の接触防止のため専任の誘導員を配置し日道式バック誘導を実施。
- ・重機との接触事故防止のためバックホウの自動停止装置、ローラのみはり組取付け。
- ・舗装版破碎時の殻飛散防止シート（ネット）の活用。



専任誘導員



自動停止装置



みはり組



飛散防止シート（ネット）

福田道路株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生方針

- ・法令順守（安全衛生関係法令の遵守）・建設業労働安全衛生マネジメントシステムの実践
- ・安全作業の推進（安全衛生活動の充実）・安全文化の構築（職場のコミュニケーション活性化）・全員参加の快適な職場づくりと心身の健康保持増進

② 安全重点目標スローガンの制定

『安全は一人ひとりの自覚から 指差し呼称で無災害』

③ 全社安全衛生重点目標

【信頼され、誇りと働きがいのある企業にあり続けるために】

1. 指差し確認・手順遵守で労働災害の防止
2. リスクの事前確認・再発防止策の徹底による公衆災害の防止
3. コメンタリー運転と目視確認の励行で交通災害の防止
4. FRCヘルスサポート2020の浸透・活用で健康経営の進化

2. 現場等における具体的な取組事例

① R4日東道交通安全施設整備その2工事における安全管理上の課題

本工事は、夜間通行止めで作業を行う工事であった。ダンプトラックによる巻き込み及び接触事故を防止するため、車両後進時及びダンプアップ時の適切な誘導と運転手の視認性確保が必要であった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

自社開発したFMラジオを利用した音声ガイダンスと、LED表示板により誘導する工事車両無音誘導システム“おとなしくん”を設置し、搬入車両の誘導を行った。

【LED表示】



（FM周波数）



（ダンプアップ）



3. その他工夫している点

- 緊急時環境影響訓練や過去の事故を検証し再現した危険疑似体験訓練の実施
- 外部講師を招いた安全講習会（協力業者参加）
- 協力業者と福田道路の女性従業員が、通常の工事関係者とは違う目線で行う「なでしこ安全パトロール」の実施

株式会社 文明屋

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

労働安全衛生MS（[P]計画[D]実施[C]評価[A]改善）を積極的に推進し、労働災害の撲滅・心の健康保持増進を図り、快適で潤いのある職場環境を形成する。

②安全衛生管理体制の構築

安全衛生計画に基づき、13名の安全衛生委員会が2～3名交代で月2回の安全パトロールを実施、月末には委員会を開催して、翌月の朝礼で安全衛生事項を周知している。また、年1回の協力会社を含む「安全祈願祭・安全大会」を企画・運営し、安全標語の募集や優良社員、優良協力会社の表彰などを実施している。

③令和5年度 安全衛生目標

- 1) 死亡・重篤災害“ゼロ”の継続
- 2) 休業災害を“ゼロ”の継続
- 3) 自損・物損を含む重機車両災害を“ゼロ”とする

2. 現場等における具体的な取組事例

①「魚野川下流床固工群その10工事」における安全管理上の課題

本工事は、冬期の河川工事で魚道を構築する工事である。

魚道構築には、クレーン作業が必須となるが、クレーンから最も遠い作業箇所が約30m離れていることから、合図者の指示が解かりにくく、コンクリート打設時はバイブレーターの音で無線も聞き辛いことから、クレーン災害防止が課題となった。

クレーン作業状況



②課題に対して現場で行った安全対策

検討した結果、作業場近くに持ち運びができるライブカメラを設置し、その映像をクレーンオペレーターが確認できるようモニターを運転席に設置した。また、クレーンブームの先端にもカメラを設置して、上部からの映像と合わせて微細な動きが確認できるようにした。このような安全対策を講じることで無事故・無災害で工事を完成できた。

ライブカメラ映像



Web カメラ映像



3. その他工夫している点

①現場内に Web カメラを設置。スマートフォンにて施工状況や降雪及び河川状態を 24h 確認することができ、降雪時や緊急時等に即対応できるようにした。

②降雪期の作業であるため、休憩時は快適に暖をとれるよう雪囲い付き休憩所を設置し、作業従事者には充電式の暖房ベストや使い捨てカイロを支給した。靴用使い捨てカイロが好評であった。



暖房ベスト支給

北陸パブリックメンテナンス 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 安全衛生管理計画の策定

工事管理運営委員会内の安全衛生連絡調整会で安全衛生管理計画を策定し、店社安全パトロールや、技術研修会等の安全活動の充実を図っている。

② 施工検討会の実施

作業着手前に経営者と工事担当者による施工検討会を開催し、事前に作成した施工計画書を基に事故を未然に防止するための対策について議論することで、社内全体での事故防止に努めた。

③ リスクアセスメントを取り入れた作業手順書の作成

弊社は長年同作業を受注していることから、施工内容に慣れている作業員が多いが、改めて事故防止を意識させるためにリスクアセスメントを取り入れた作業手順書を作成した。

2. 現場等における具体的な取組事例

① R3-5 長岡国道管内道路維持作業における安全管理上の課題

本作業は、長岡国道事務所が管理する4出張所（長岡・柏崎・小出・湯沢）の清掃作業を主とした作業である。そのため、現道上での作業がほとんどであり、メインの作業となる除草作業時の飛び石による第三者被害防止が課題となった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

除草作業時の飛び石対策として、通常使用するチップソーに加え、飛び石抑制のために新技術である『スーパーカルマーPRO(KK-020031-VE※)』を使用することで、飛び石による第三者事故を防ぐことができたほか、キックバックによる作業員の負傷事故も起こすことなく作業を完成させることができた。



(※現在は NETIS 掲載終了)

3. その他工夫している点

年1回全社で実施している技術研修会に外部講師（労働安全コンサルタント）を招き、安全講話を実施した。また、建設DXとして「AIと人で警備を行う新システム【ハイブリッド警備システム】」について研修を受けた。